

(様式1)

校種	小・中	学校番号	24	学校名	宇都宮市立平石北小学校
----	-----	------	----	-----	-------------

令和7年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら考え主体的に行動し、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ア 思いやりがあり協力し合える子（心ゆたかで）
- イ 進んで学び自ら考える子（かしこく）
- ウ 心と体をきたえる子（たくましく）

2 学校経営の理念

「地域と共に歩む学校」

児童と保護者と地域住民の思いを大切にし、地域の教育資源の有効活用を図りながら、創意工夫のある教育活動を実践する学校

3 学校経営の方針

(1) 目指す学校の姿

- ア 児童が主役の学校
- イ 笑顔あふれる学校
- ウ 安全・安心な学校

(2) 目指す教職員像

- ア 思いやりがあり協力し合える教職員
- イ 進んで学び自ら考える教職員
- ウ 心と体をきたえる教職員

(3) 学校経営方針（今年度の重点目標）

- ア 思いやりがあり協力し合える子（心ゆたかで）
 - ・不登校・いじめ問題等への未然防止・早期対応
 - ・互いに認め合い高め合う学級経営の推進
- イ 進んで学び自ら考える子（かしこく）
 - ・宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」の実践
 - ・「自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成」の追究
- ウ 心と体をきたえる子（たくましく）
 - ・体力・保健・食育・安全を一体とした健康教育の推進

(4) 「平北プロジェクト」（本校教育の重点）の策定と全職員の参画による実践推進

- プロジェクト1 「さわやか生活プロジェクト」（心ゆたかで）：いじめのない温かな人間関係の構築
- プロジェクト2 「いきいき勉強プロジェクト」（かしこく）：学校課題の推進
- プロジェクト3 「すくすく体プロジェクト」（たくましく）：健康な体作りと食育
- プロジェクト4 「人や自然との触れ合いプロジェクト」（特色ある学校づくり）：地域との連携

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

社会に開かれた教育編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から、一貫性、相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し、教育活動を展開する。

- (1) 各教科の教育内容を相互関係でとらえ、教科横断的な視点で内容を組織的に配列する。
- (2) 子供たちの姿や地域の現状に基づき、教育課程を PDCA サイクルで実施改善する。
- (3) 小規模校の特性を生かし、教育内容と地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。
(体験活動・出前授業・ボランティア活動・平北ファーム・幼小交流活動 等)

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

- ・学校マネジメントシステムを生かした活気あふれる学校づくりの推進
- ・育てたい児童の姿を明確にした教育活動の充実
- ・勤務の効率化を意識した働き方の推進
- ・教職員一人一人のキャリアアップと高い同僚性を十分に生かした組織力の向上

(2) 学習指導

- ・自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成 ～対話的活動を効果的に取り入れた授業づくりを通して～

(3) 児童生徒指導

- ・規範意識を高め、多様性を認めて支え合い、安心して過ごせる集団づくり
- ・互いを認め合い、励まし合う指導を通じた、自己肯定感や自己有用感の育成

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

- ・自ら進んで安全な生活を送り、心と身体の健康づくりに取り組む児童の育成

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組（平北プロジェクト4）

(1) 育てたい資質・能力

「地域や自然を愛し、人との触れ合いや交流活動を通して、社会性を身に付けた子どもを育成する」

ア 地域の自然や人材、施設を教育活動に積極的に活用し、生命尊重の精神や豊かな心（人間性）、集団や社会の一員として大切な態度（社会性）などを育成する。

イ 人との多様な交流を通して、自分を見つめるとともに、自己の生き方を考えさせる。

ウ 体験活動等を通じた学習により、主体的に学ぶ力と学ぶことの楽しさや成就感を体得させる。

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

ア「生命を尊重する心」や「豊かな心」を育てるための教育活動の充実

- ◇・教科……………人や自然との触れ合いを重視した、人材活用授業、体験的な学習等の充実 など
- ・特別の教科 道徳……………心に響く教材を工夫し、考え議論する道徳授業の実践、自分のよさを知り、
生き方を考える学習 など
- ・学校行事・児童会活動…運動会・児童集会（新入生歓迎会・6年生を送る会等）での交流、
各委員会主催の集会での交流 など
- ・総合的な学習の時間……地域の社会福祉施設とのふれあい活動（3年）
身近な地域を知り、日本・世界へ関心を高める学習（3～6年）など
- ・宇都宮学……………地域資源・教材を活用した、郷土の愛着を育むための指導の充実
- ・なかよし班活動……………縦割り班による、学校農園活動・清掃・給食・行事・遊び等の活動
- ・読書活動……………豊かな感性を育てるための読書活動の充実
- ・小中一貫教育……………地域学校園小中学校での交流、特別支援学級間での交流

イ 生命尊重の心を育てる植物の栽培活動等の実践

- ・各学年での飼育栽培活動や、教材園における作物栽培（全学年：学校行事・生活科・理科）

ウ 効果的な体験活動の充実や、専門的な外部講師による出前授業の実施、学校支援ボランティアの活用

◇・校外学習の充実（生活科・社会科・理科・総合的な学習の時間等）

- ・地域の老人福祉施設（高砂荘）訪問・幼稚園との交流活動（生活科・総合的な学習の時間）

◇・専門的な外部講師による出前授業の実施（各教科・学校行事）

- ・生き方講演会の実施（キャリア教育との関連）
- ・学校支援ボランティア・街の先生の活用、地域協議会への連携協力依頼

エ 特色ある学校づくりについての地域への啓発及び協力依頼

- ・教育活動の成果発表・・・学校公開・音楽集会・運動会・PTA文化祭・地域行事への参加
- ・学校便り・学年便り・各種たより等の発信，ホームページによる発信

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

ア 基本的な考え

本地区は、保護者はもとより祖父母等の家族が代々本校出身である家庭も多く、学校によせる地域の期待や思いはことのほか大きい。そのような中で学校が積極的に情報を発信し学校経営の意図や方向性、児童の活動や頑張りの様子を伝えることが大切と考える。特に、地域協議会構成員の積極的な教育活動への参画を促していきたい。

イ 主な取組

- ・学校便りや各種便り，ホームページの活用により，積極的な情報の発信を行う。
- ・地域協議会ボランティアによる体験活動（学校農園活動・昔遊び体験 等）
- ・地域人材の発掘（消防団関係・戦争体験・フラワーアレンジメント等）を積極的に行う。
- ・地域協議会による親子体験教室や親学講座等を継続して実施していく。
- ・地域の施設（高砂荘）訪問での発表・体験活動を行う。

(2) 小中一貫教育・地域学校園

ア 基本的な考え

児童や生徒の実態を踏まえて、さらなる基礎学力の向上を図るとともにじっくり考え、伝え合う力を育てる。また、特別支援学級の連携、及び通常学級における特別な配慮を要する児童・生徒についての情報交換をもとに、一人一人に寄り添った指導を心掛ける。

イ 主な取組

- ・児童一人一人のよさを認め励ますことで、自信や自己有用感・自己肯定感を高める指導
- ・「めあて」の効果的な提示と振り返りの時間の確保、自分の考えを書く活動と説明や話し合いを関連づけた指導を行い、宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した授業を展開する。
- ・授業の約束・準備や着席、良い返事や言葉づかい等の学習規律の確立
- ・望ましい生活習慣の定着に向けた指導と、「ひらきたよい子の1日チェックリスト」の活用
- ・学習と生活に関する「プロジェクトチーム」による評価とマネジメント
- ・一人一授業を通じた教師の授業力の向上

(3) 不登校対策

ア 基本的な考え

本地区学校園にとって「不登校対策」は大きな課題である。不登校傾向や行き渋り等が見られる児童に対しては、登校できている間の関わりや支援を重視し、新たな不登校を生まないために全職員による組織的な対応と家庭との連携を進めていく。

イ 主な取組

- ・基本的な対応「1日休んだら電話連絡 2日続けて休んだら家庭訪問」の徹底
- ・児童の自己肯定感を高め、互いを認め合うような居心地の良い学級づくりを進める
- ・「欠席状況共有シート」やQU等を活用して客観的情報の共有化を図り、PDCAサイクルを意識した組織的・継続的な支援を行う。
- ・SCの活用や、保護者との情報や支援策の共有による連携を図る。
- ・行き渋り等が見られた場合は、迅速にケース会議を開き、組織として対応する。
- ・年2回の教育相談の他に、相談ポストの設置を周知して、気軽に相談できる機会を設ける。

(4) GIGA スクール構想

ア 基本的な考え

教育活動を進める上で必要な様々な情報の多くはデータ化されている。それらの情報を効果的に正しく活用するための目的や方法を正しく学び、日々変化していく環境に適応する力を身に付ける。

イ 主な取組

- ・GIGA スクール構想の目的や教育活動への取組に関して、教職員の研修を実施する。
- ・プログラミング教育やICT活用の見直しを実施し、教科・領域の年計に位置付ける。
- ・一人一授業等にICT活用の授業を位置付け、適宜検証していく。
- ・ICT環境を整えるとともに、授業外においても1人1台端末を有効活用して家庭学習に取り入れたり、授業参観時に公開したりするなど、機会をとらえて保護者や地域に説明していく。
- ・情報モラルに関しては、「情報モラル教育年間指導計画」に基づき、教職員の研修の機会等を設定し、ICT支援員や外部講師などを積極的に活用するようにする。また、全学年で「デジタル・シティズンシップ教育」を行うことなどとともに、児童指導を徹底する。そして、より良い情報の使い手となるための教育を、体系的・継続的に行う。

(5) 宇都宮学

ア 基本的な考え

本校の特色である地域を学び地域を愛する活動と関連付けながら、郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるようにする。

イ 主な取組

- ・「宇都宮学」を3・4年生は社会科、5・6年生は「総合的な学習」と関連付けて、それぞれの年計に位置付け、計画的に授業を行う。
- ・3年生の授業では、「うつのみや魅力講座」の出前授業を実施する。
- ・6年生では宇都宮の伝統について、ボランティアや出前授業などを取り入れ、「ふくべ細工づくり」などの体験学習や、「戦争体験談」などの講話や民話を聴く機会を作る。
- ・学習の成果を発表できる場を設定し、学習効果を高める。